

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
104-120	小学校	算数科	算数	3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2・東書	算数・312 算数・313	新編 新しい算数 3上 考えたことがつながるね！ 新編 新しい算数 3下 考えたことがつながるね！		

1 編修の基本方針

じっくり考え、学びを楽しみ、しっかり身につける

次世代を担う子どもたちには、予測困難な社会の中でさまざまな未知なる課題に向き合い、他者と協働しながら解決し未来を切り拓く力が不可欠です。

「新編 新しい算数」は、教育基本法の目的及び理念を踏まえ、幅広い知識と教養を身につけ、創造性を培い、筋道立てて考え、自立的、協働的に課題を解決する力を養うことができるように、次のような基本方針を特色として編修しました。

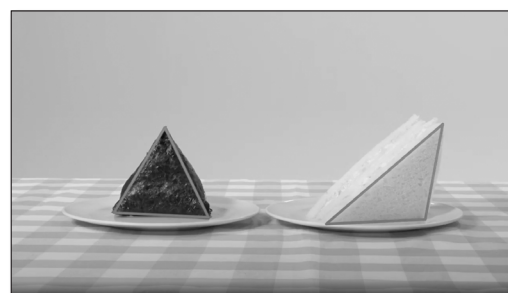


特色 | ICT のよさも生かした深い学びを実現

(1) 教科書の内容に即した QR コンテンツの質・量の充実

① 動画、シミュレーション、演習などの豊富な QR コンテンツの設定

☞ 第3学年では、動画コンテンツとして単元導入前に学習動機を創出するオープニングムービーや、繰り返し確認したい筆算の仕方や円のかき方などを設定しました。また、教具の操作で思考を支援するシミュレーション、練習問題デジタル版など、学びを支援するQRコンテンツを全部で301設定しました。対面授業、オンライン授業、家庭学習など、シーンを選ばず活用することができます。ICT機器で教科書紙面に掲載した二次元コードを読み取れば、簡単に活用することができます。



▲下p.80 QRコンテンツ「どんな三角形かな？」
(オープニングムービー)

本資料の本頁下部にある二次元コードを読み取ると、各巻のQRコンテンツにアクセスすることができます。

② 個人を尊重し、その能力を伸ばす学びの支援

☞ 練習問題等の演習コンテンツには、自動正誤判定や結果の記録機能などをもたせました。個別最適化された学びを支援し、能力を伸ばすことができます。

③ 教師の指導・評価もサポート

☞ 例えば、シミュレーションコンテンツ使用時に、スクリーンショット機能を活用して子どもの端末の画像を収集したり共有したりすることにより、一人一人の思考の様相をよりの確に把握し、指導や支援、学習評価に生かすことができます。

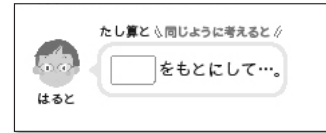


(1) 資質・能力を育むための単元設計

「新編 新しい算数」では、同じ数学的な見方・考え方を繰り返し働かせながら資質・能力を高めていくという特性が特に顕著な単元において、単元の前半は吹き出しや補助発問などを丁寧に設定し、中盤から後半にかけてはそれまでに育った資質・能力を駆使していっそう高めることができるように、あえて吹き出しや補助発問等を段階的に減少させる設計としました。
 これまでの特長である丁寧さを継承しつつ、紙面のシンプル化もはかりながら資質・能力を高める新設計です。

(2) 「既習を生かして考えること」を促進する吹き出し \ 同じように考えると /

算数の学習を通して、未知の課題に対して、既習を生かして考える力を育みたいと考えます。そこで、既習を生かして同じように考えることを促進しつつ、考え方は書き示してしまわない吹き出し \ 同じように考えると / を随所に新設しました。



▲下 p.23

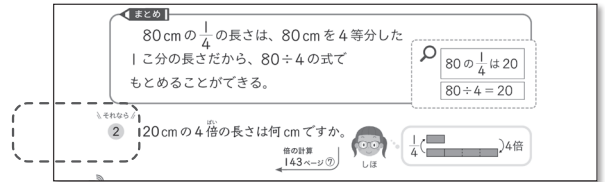
(その他の箇所例)
 上 p.37、45、100、下 p.21、38 など

(3) 「学習したことを基に発展的、創造的に考えること」を促進する \ それなら /

算数の学習を通して、既習を発展させ新たな課題を見出し解決しようとする態度や力を育みたいと考えます。そこで、「新編 新しい算数」では、新たに次の2点に取り組みました。

① まとめの後の補助発問 \ それなら /

問題解決の後、さらに学びを深めるための補助発問として随所に設定しました。理解深化や、問題解決の際に働かせた数学的な見方・考え方の価値の再確認など有機的な学習の振り返りにもつながります。



▲上 p.124

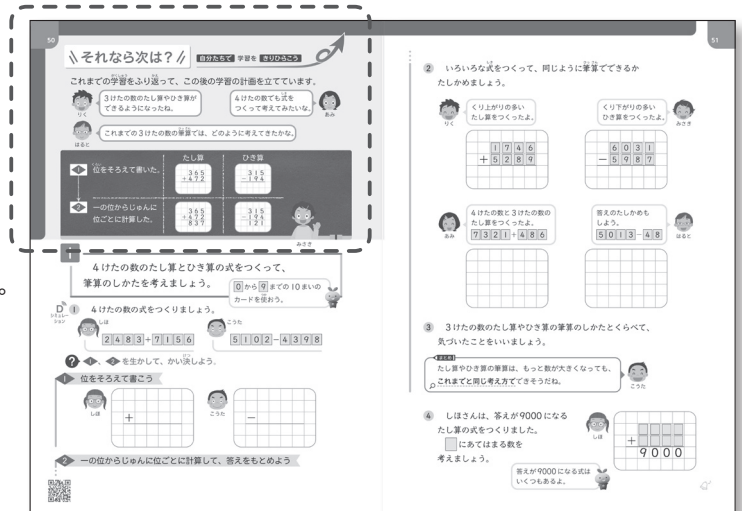
(その他の箇所例)
 上 p.108、125、下 p.22 など

② | 単位時間の最後に位置づく吹き出し \ それなら /

| 単位時間の区切りの目安となる位置に、発展的に考え次時の学習内容を創造する子どもの姿を適宜例示しました。学びの連続性を重視しています。(上 p.12、46、下 p.32、83 など)

(4) 学びを生かし、自分たちで学びを切り拓くことを促進する \ それなら次は? /

これまでの問題解決の過程を振り返り、新たな課題を見出し、解決の計画を立て実行する力を育むページ \ それなら次は? / を新設しました。導入時の振り返りや、課題を見出し計画を立てる場面を丁寧に扱う一方で、本時の問題の解決に関わる記述は最低限に止め、子どもがこれまでに培った力を発揮して解決できるようにしています。



▲上 p.50 ~ 51

(5) 問題との価値ある出会い、自立と協働、主体性を重視した「今日の深い学び」

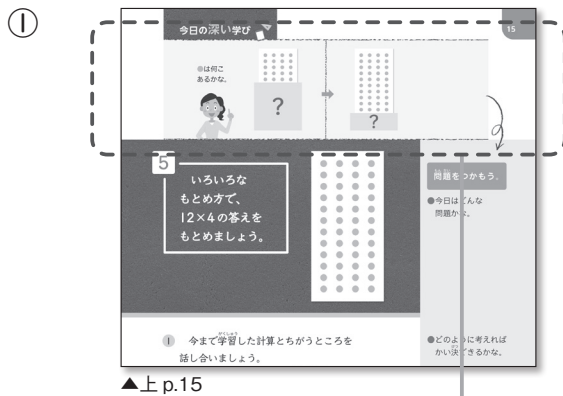
今改訂では、問題との出会いの過程および自立的、協働的に問題解決に取り組む態度や力の育成をさらに重視し、次の2点に取り組み、従前より設定している「今日の深い学び」をいっそう進化させました。

① 数学化（問題との出会い）の過程を可視化

👉 問題提示の配慮や工夫について、**学習の連続性を基盤とした創造的なもの**としている先生方の優れた実践を基に可視化しました。創造的に次の課題を見出す力の育成も目指しています。

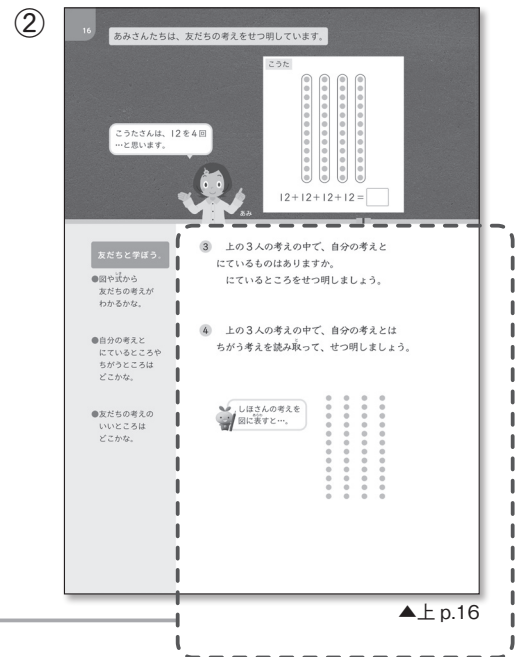
② 協働的な学びの過程をいっそう重視

👉 協働的な学びによる練り上げの過程では、**自分の考えと他者の考えの比較・検討に主眼**を置きました。展開の主眼を一問一答による内容理解から発展させ、より深く考えることを重視しています。



まず、既習の乗法を振り返るとともに、2段階での提示により分配法則も想起させます。その上で、 12×4 に出会います。

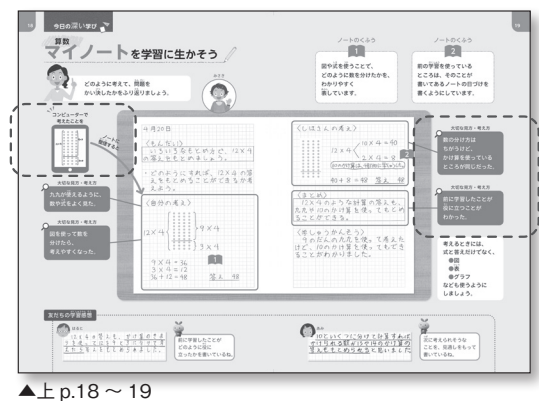
協働的な学びの過程における補助発問は、「自分の考えと似ている考えを見出し、図や式などを用いて説明する」といった、内容理解と深い考察の両方を促進する内容です。



なお、ノートづくりやその活用も併せて重視しています。

上巻巻頭「学びのとびら」(上 p.6~7)ではノートづくりの例を、「今日の深い学び」では**ノートの活用の仕方**の例を示しています。

具体的には、ICT機器を活用して考えた際にも**ノートをその整理の場として活用すべきこと**や、大切な数学的な見方・考え方の振り返りと自覚を強調しました。



(6) 授業開きで問題解決の方法を体感する「学びのとびら」の設定

上巻の巻頭には、授業開きでの活用を意図した「学びのとびら」を設定しました。p.4~5では、以後の学習の土台づくりとして、問題解決の方法やその際に大切にすべき視点などを、実際の授業を通して体感することができます(上 p.2~7)。

(7) 生きて働く知識・技能を身につけるための配慮と工夫

① 繰り返し何度も取り組みながら定着させるための QR コンテンツを設定

☞ 第3学年では、例えば乗法の筆算の仕方や除法の意味や計算などについて、以後の学習を見据えて確実な定着が求められます。そこで、**筆算の仕方を確認するための動画や、繰り返し取り組んで習熟をはかるための練習問題等の QR コンテンツを豊富に設定しました。**なお、一部の筆算の仕方の動画では、ブロック化した図によってアルゴリズムを表現し、**プログラミング的思考の土台を築くこともできる**ようにしています。

② 復習の適切な設定

☞ **自社作成の学力調査をはじめ各種学力調査結果を分析し、特に理解、定着度が低い内容を中心に復習するページ「おぼえているかな？」を設定しました。**朝学習や家庭学習用の教材として活用が可能で、知識・技能の維持、定着をはかることができます（上 p.43、121、下 p.43、57、75、94）。

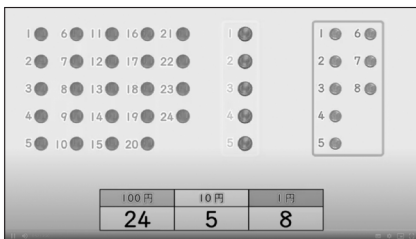
③ 学力調査の結果に基づいた取り扱いの配慮や工夫

☞ 学力調査において理解、定着度が不十分な内容は特に丁寧に取り扱いました（上 p.41 加減乗除の各場面を表す文章を読み取り、指定の除法の式に適合する場面を選択する問題の設定など）。

特色 3 学ぶ意義や楽しさの実感による、主体的に学習に取り組む態度の育成

(1) 学習動機を創出する QR コンテンツ「オープニングムービー」の新設

☞ **単元冒頭「単元プロローグ」の内容に関連した学習の動機づけ動画を複数の単元で設定し、学習動機を明確にもつことができるようにしました。**単元の最初の授業や家庭学習において視聴し、解決したい課題を明確にすることで、いっそう主体的に学習に取り組むことができます。



▲上 p.92 QR コンテンツ「数で表すと？」



▲下 p.30 QR コンテンツ「重さについて考えてみると？」

(2) 算数と生活との関連を重視した場面や活動の設定

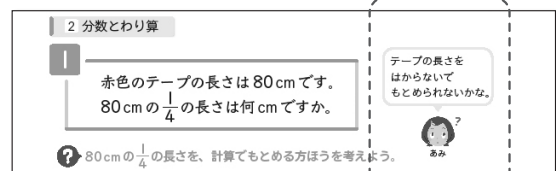
☞ 各単元冒頭「単元プロローグ」や単元末「いかしてみよう」を中心として、学校や日常生活との関連を重視した場面設定や活動を随所に取り入れました。算数の有用性や学習の楽しさを実感しながら主体的に学習に取り組むことができます。



▲下 p.14

(3) 自己調整力の育成を重視

☞ 「既習を生かせば解決はできるけど、もっといい方法はないか」と考え自己調整する姿を適宜例示し、よりよく考えようとする態度や力を身につけることができるようにしました。



▲上 p.124

2 対照表

	図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭	学びのとびら	<ul style="list-style-type: none"> ● 自ら考え表現することを促し、自主および自律の精神を育てるとともに、創造性を培えるようにしました。また、他者の考えを解釈したり互いに考えを検討したりする学習活動を促し、個人の価値を尊重したり道徳心を培ったりできるようにしました（各単元も同様）。（第1号、第2号） ● 授業の規律として、自立的に学ぶ段階、他者との協働で学ぶ段階、および各学習段階での着眼点等を例示することにより、公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画する態度を養うことができるようにしました。（第3号） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上4～7 ● 上4～7
各単元	各時の問題や学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 単元プロローグでは子どもの日常生活を中心に多方面から素材を収集し、学びに向かう意欲を高め幅広い知識と教養を身に付けられるようにしました。（第1号） ● 動植物や安全への関心を高める問題場面を設けて生命を意識できるようにし、自他の生命を尊重する心が育つようにしました。（第4号） ● 他者と協働して行う測定、協働で行う学習活動を数多く取り入れたり、絵や写真は他者と協働することの楽しさなどが感じ取れるものを掲載したり、2人組以上の活動事例を男女の組で示したりすることにより、男女の平等や自他の敬愛と協力を重んずることができるようになりました。（第3号） ● 昔の単位やそろばんの歴史を取り上げ、児童が学習で得た教養に関連づけながら、算数・数学のよさや日本の伝統に触れることができるようにしました。（第5号） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上30、56、66、92、下2、14、80ほか ● 上60、66～76、下11、38、39、80ほか ● 上8、20、28、59、63、下37、38ほか ● 上62、下97
巻末	ほじゅうのもんだい おもしろもんだい さく引	<ul style="list-style-type: none"> ● 個の学習意欲やつまずきなど、必要に応じて自主的に取り組む際に用いる教材をふんだんに用意し、個人の価値を尊重しながら能力を伸ばせるようにしました。（第2号） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上128～143、表3 下106～119、表3

3 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(1) すべての子どもが安心して学力を育むための配慮

① 特別支援教育への配慮

☞ すべての文章において文節改行（読みやすい位置での改行）を徹底したり、問題やまとめなど重要事項を枠で囲んだりしました。また、独自に開発した視認性の高いUD教科書体を採用しました。さらに、イラスト、写真、図などを、カラーユニバーサルデザインに取り組むボランティア団体の協力を得て点検しました。

② 多様性への配慮

☞ 性別、服装、人種等のバランスに配慮し、個人の属性や価値を尊重する態度を育むことができるようになりました。

(2) GIGA スクール構想下における学びの充実

☞ 授業（オンライン授業含む）での活用を想定し、教師用指導書には指導者用デジタル教材も収載する予定です。感染症の流行等の不測の事態においても学びを止めないことを重視し、支援します。

☞ 学習者用デジタル教科書を発行する予定です。ICT機器活用のメリットを生かした学びの実現を支援します。

(3) 教師への支援

☞ 指導計画案（単式、複式）、展開案、評価規準、板書例、評価問題、教師用の指導者用デジタル教材等で構成した教師用指導書を発行します。授業の充実と教師の負担軽減の両立を目指します。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

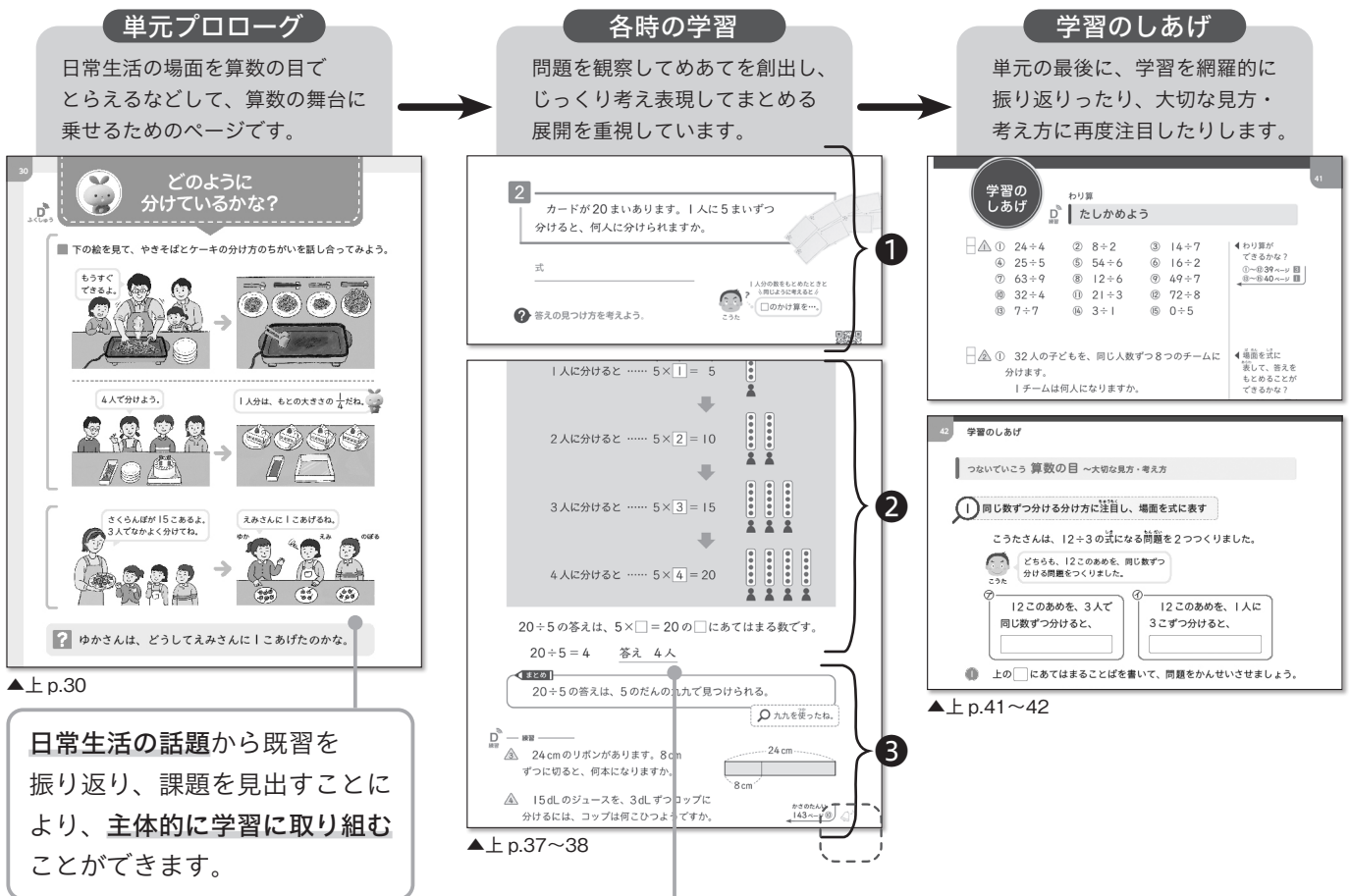
受理番号	学校	教科	種目	学年
104-120	小学校	算数科	算数	3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2・東書	算数・312 算数・313	新編 新しい算数 3上 考えたことがつながるね！ 新編 新しい算数 3下 考えたことがつながるね！		

1 編修上特に意を用いた点や特色

「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する」。

「新編 新しい算数」は、算数科の目標を達成するための構成を基盤に、随所に取り扱いの工夫を施しました。

数学的活動を基盤とした各単元の基本構成



- 1 ?付きの吹き出し（めあてを生むきっかけ）などを基に問題とじっくり向き合った上でめあて（?）を創出します。
- 2 図や式などを用いて思考・判断・表現する活動を基盤として展開し、資質・能力を育みます。
- 3 まとめては本時に働かせた数学的な見方・考え方（O）を取り上げます。最後に、原則として練習（△）に取り組み、しっかり定着させます。側注にはベル（🔔）を示し、1単位時間の区切りを例示します。

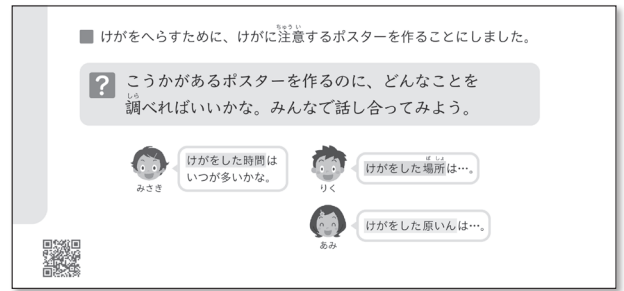
巻末には、補充問題、発展問題などで構成するオプション教材「新しい算数プラス」を設定しています。個別最適化された学習のための教材として活用することができます。

これまでの「新しい算数」の特長である丁寧な数学的活動の可視化を継承しつつ、吹き出しの内容をいっそう精選するなどシンプル化をはかりました。授業、自学を問わず、安心して使うことができる構成です。

(1) 第6単元「ぼうグラフと表」～ 問題解決の文脈を重視 / QR コンテンツの活用

① 学習動機を重視

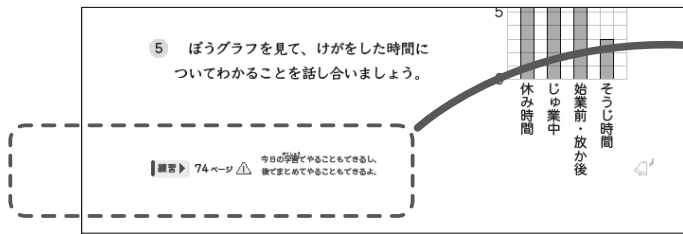
- ☞ 「けがを減らすために、注意を促すポスターをつくる」という場面を設定しました。学習動機を明確にします。
- ☞ 分析の観点に着目し、データの収集や分析の見直しをもち計画を立てる活動も重視しました。これらのことにより、主体的な学びを促します。



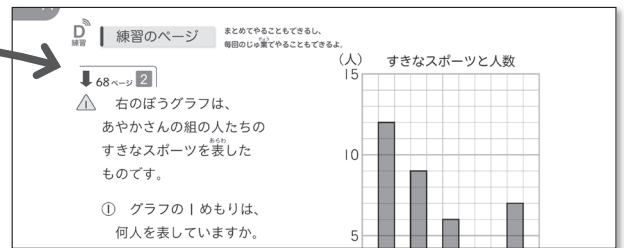
▲上 p.66

② 文脈重視のための工夫と配慮

- ☞ データの活用領域の単元は、下学年よりPPDACサイクルを基盤とした構成としています。その際、文脈の一貫性も大切な要素です。そこで、単元の途中で「けが調べ」と全く異なる話題を挟まない学習を可能にするために、各時の内容に対応する練習問題を単元内の別ページに集約しました。各時の終わりにリンクを明示しているので、従来通り各時の中で取り組むことも可能です。



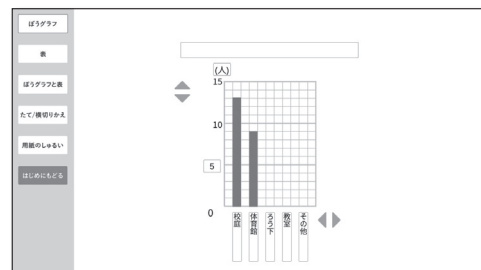
▲上 p.69



▲上 p.74

③ 表やグラフ作成の QR コンテンツを活用

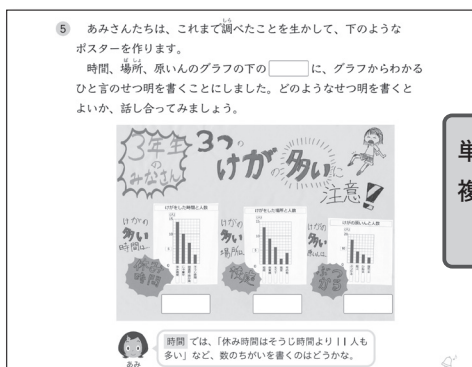
- ☞ 表やグラフへの表現は、QR コンテンツを活用して効率的に行うことができます。タイトルや数値、目盛りの大きさなどを自由に変えることができるため単元を通して活用することができ、データの分析や判断により多くの時間を使うことができます。



▲上 p.71 QR コンテンツ「ぼうグラフをかこう」

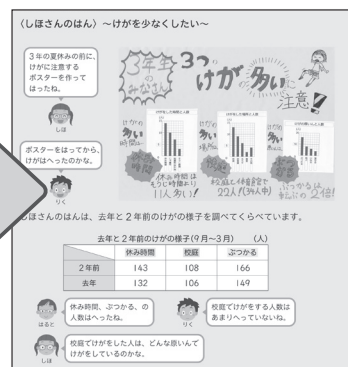
④ 学年をまたいだ教材の関連づけ

- ☞ 本単元では、PPDACサイクルのCの段階で、具体的なポスター作りを話題としています。そして、4学年ではあらためて同じポスターを取り上げ、学習の動機づくりに活用します。3学年時に導いた結論の効果検証を4学年での学習動機とすることにより、データ分析の視座の広がりを捉えやすく、成長を実感することができます。



▲3上 p.73

単眼的な分析から
複眼的な分析への
高まり



▲4上 p.29

(2) 第11単元「大きい数のわり算、分数とわり算」～ 学習の関連づけによるつまずきへの配慮

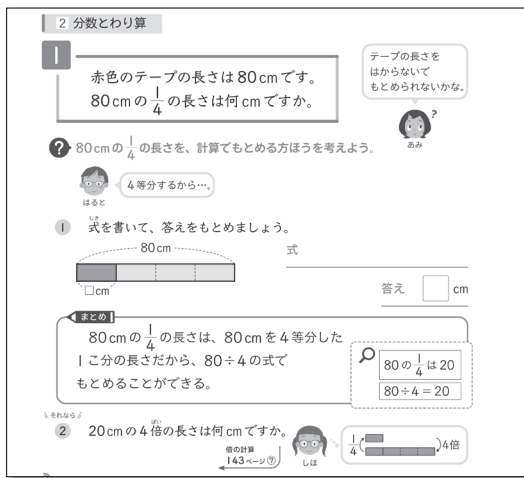
① 分数とわり算の関連づけによる「割合」の素地づくり、つまずきへの対応

☞ 「80cmの $\frac{1}{4}$ の長さ」というと難しく感じる子どももいますが、これが $80 \div 4 = 20$ と計算で求められることを理解すれば抵抗感は軽減され、また「80の $\frac{1}{4}$ は20」や「20の4倍は80」といった一方を基準としてももう一方の大きさを捉える見方をしやすくなります。

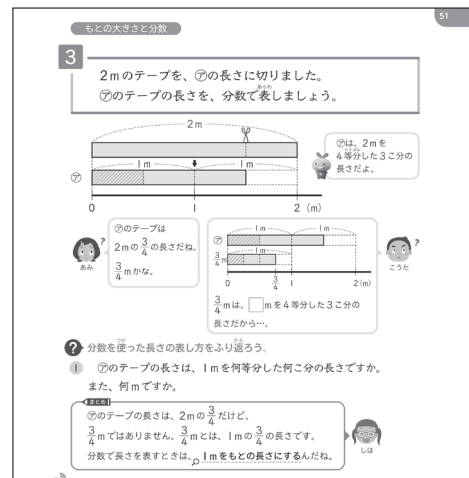
第3学年では、分数とわり算の関連づけによって割合の素地をつくります。

☞ 学力調査等では、おもに高学年の調査問題として2m (200cm) のテープを3等分した1こ分の長さが問われることがあります。が、 $\frac{1}{3}$ m (≈ 33 cm) という誤答が少なくありません。もとの長さ2mに着目し、それを3等分した1こ分の長さが $200 \div 3$ で求められることを理解していれば、 $\frac{1}{3}$ m (≈ 33 cm) ではないと考えやすくなります。

3学年の段階で分数とわり算を関連づけることによって、後のつまずきの軽減、解消も目指しています。さらに、3学年第15単元「分数」ではもとの大きさに着目することの大切さについて丁寧に扱っています。



▲上 p.124



▲下 p.51

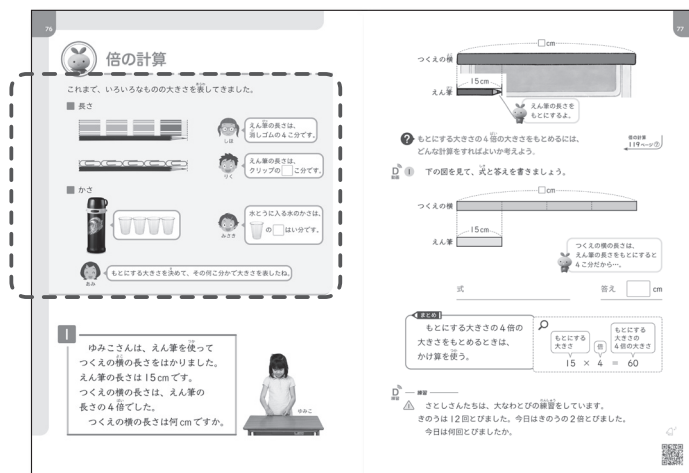
(3) 下巻ミニ単元「倍の計算」～ 領域を横断した同じ見方・考え方で学習をつなぐ

① 測定の原理と倍の共通点を基に学習を展開

☞ 測定も倍も、単位とする大きさに着目し、その大きさのどれだけにあたるかを考えます。

倍を難しいと感じる子どもは少なくありませんが、測定の学習と統合的に捉えることによって困難さは軽減すると考えられます。


そこで、導入では、既習の長さ、かさの測定原理について取り上げ、その後の展開では一貫して長さの場面を扱いました。測定の学習と倍の学習を統合的に捉えることにより、理解を深めることができます。



▲下 p.76 ~ 77

観点別特色一覧

観点	特色	箇所
教育基本法および学習指導要領の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ● 数学的な判断に基づき他者の考えを解釈、検討することを重視し、自他の価値を尊重してその能力を伸ばし、創造性を培えるようにしました。 ● 資質・能力の育成のための優れた研究や実践の成果をもとに、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を基盤とした学習展開を重視しました。 	全体
ICTの活用への取り組み	<p>< QRコンテンツの質・量の充実 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学習者用の QR コンテンツ数を充実させました (301 コンテンツ)。授業中の自力解決や集団解決、習熟のための演習、家庭学習など、シーンを選ばず活用することができます。個別最適化された学びの実現にも有用です。例えば、以下のような種類のコンテンツがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ・単元の動機づけ、図形のかき方、計算の仕方など (動画) … 25 コンテンツ ・振り返りや各時の演習 … 228 コンテンツ ・表やグラフの作成、図形操作など (シミュレーション) … 40 コンテンツ ・その他 (端末の使い方、SDGs 関連内容、感染症対策、資料) … 8 コンテンツ ・QR コンテンツを設定している箇所には  のマークを付して強調し、一目で分かるようにしています。そして、各ページ下側定位置に掲載した二次元コードを読み取るだけで、簡単にアクセスすることができます。また、いずれのコンテンツも 3 年生の子どもが直感的に操作できる仕様です。 <p>< 学習者用デジタル教科書の発行 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学習者用デジタル教科書を発行予定です。ワンタッチで QR コンテンツを起動できたり、教科書紙面への書き込みや保存ができたりする、学習者の活用に適した仕様となる予定です。 ● 色反転や自動読み上げ、総ルビなどの専用ビューアの機能を使用することで、特別支援教育の充実を支援します。 <p>*学習者用デジタル教科書の仕様は、予告なく変更することがあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 上 17、25、32、45、92、111、下 2、17、30、63、77、80、96 ほか
教師の指導、評価支援 (教師用指導書)	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導計画 (単式、複式など)、評価規準例、展開例、解答例、板書例などで構成した教師用指導書を発行する予定です。 ● 通常の授業をはじめ、オンライン授業でも活用可能な指導者用デジタル教材等も付属予定です。教師の働き方改革と指導の充実の両立を目指します。 	
学びの系統性・連続性	<ul style="list-style-type: none"> ● 「単元プロローグ」における既習を振り返り学習課題をつくる活動、問題解決の過程における既習とのつながりへの着目を促す吹き出しや補助発問、後の学習の素地づくりとなる活動などを積極的に取り入れ、学びの系統性や連続性を意識できるようにしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上 8、44、45、68、82、下 22~24、31、53~54、93 ほか
知識や技能の習熟・定着	<ul style="list-style-type: none"> ● 各時の展開において、数学的な見方・考え方を働かせ既習と当該の学習をつなぐための補助発問や吹き出しを適切に設定し、数学的活動を軸とした学習展開を徹底して、知識や技能の断片的な詰め込みにはならないことを重視しました。 ● 復習ページ「おぼえているかな？」を適宜設定しました。自社実施の学力調査をはじめとする各種学力調査の分析結果を基につまづきが多い問題を厳選し、習熟度を維持、向上させることができるようにしました。また、次単元のレディネスとなる問題には  を付し、つまづきへの事前対応に活用できるようにしました。 ● 巻末オプション教材「新しい算数プラス」では、各単元の練習問題と対応した補充問題をふんだんに用意しました。さらに、個別最適化された学びの支援として難易度別に 2 種類の問題を用意し、個に応じて選択的に取り扱うことができるようにしました。「おぼえているかな？」とあわせて、朝学習や家庭学習用教材として活用することもできます。 ● ICT 活用の一環として、知識や技能の習熟・定着のための QR コンテンツをふんだんに設定し、即時的な正誤判定、結果の記録、やり直し、全答時のアクションなどを取り入れ、子どもが楽しく主体的に練習し、力をつけることができるようにしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上 14、107~108、下 22、24、52~54、84 ほか ● 上 43、121、下 43、57、75、94 ● 上 128~143、下 106~119 ● 上 8、11、34、41、88、114、下 55、71 ほか
思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ● 思考し、表現する学習活動を適切に取り入れられました。特に、思考を図や式に表すといった学習活動を本文や特設ページ「考える力をのぼそう」にて重視しました。 ● 既習と同じように考えることを促進する吹き出し「同じように考えると」を設定し、既習を生かして考えようとする態度や力を育むことができましたようにしました。 ● 問題を解決した後、さらに発展的に考え理解を深めたり、見方・考え方の価値を再確認したりするための補助発問「それなら」を適宜設定し、より深く学ぶことができるようにしました。 ● それまでの問題解決の過程を振り返り、新たな課題を見出し解決の計画を立てて実行するページ「それなら次は？」を新設し、自立的に学びを切り拓こうとする態度や力を育むことができるようにしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上 14、54~55、下 98~99 ほか ● 上 37、45、47、下 21、23、38 ほか ● 上 108、124、125、下 22、23 ほか ● 上 50~51

思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ● ICT 活用への取り組みの一環として、問題解決の際に思考や表現を支援する QR コンテンツをふんだんに用意しました。書いたり消したりすることが簡単なため、よりよい解決を追究しようとする態度や力の育成にもつながります。 ● ノートづくりを重視し、巻頭「学びのとびら」ではノートづくりの基本的な事項の例を取り扱いました。単元内の「今日の深い学び」では、ノートを用いて本時で働かせた数学的な見方・考え方を主眼に学びを省察することや、ICT 機器を活用した際には、思考の整理の場としてノートを活用することを例示しました。 ● 特に、同じ数学的な見方・考え方を繰り返し働かせる単元の中後半の吹き出しは、答えを書き示してしまわないようにして、子どもが考えることを重視しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上 4、13、17 下 9、34、91 ほか ● 上 6～7、18～19 下 27QR コンテンツ、87QR コンテンツ ● 上 100、123、 下 23、24 ほか
主体的に学びに 取り組む態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ● よりよく問題解決しようとする姿や、発展的に考えようとする姿を例示しました。 ● 日常生活と学習場面を関連づけ、学習することの意義や学習内容の有用性を実感することができるようにしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上 46、124 ほか ● 上 30、66、80、 下 2、14、80 ほか
組織・配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> ● スパイラルに学習することを重視し、乗除計算など確実な習熟・定着が求められる内容の指導の学期を分ける、同一領域の内容は適切に単元を分けるなど、単元構成、配列を工夫しました。 ● 特に習熟・定着が求められる単元では相応の練習問題を用意する、練習の機会を増やすよう学期末や学年末の配置を避けるなどの配慮をしました。 	全体
他教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ● 他教科との関連を  を付して明示しました。 ● 属人的な判断ではなく、論理に基づいて判断することを積み重ねることで、自他の価値を尊重する態度を養うなど道徳教育との関連に配慮しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 下 5、31、80 ● 全体
特別支援教育への対応	<ul style="list-style-type: none"> ● カラーユニバーサルデザイン、余白を生かした紙面デザインを徹底しました。 ● 自社開発の UD 教科書体を採用し、文字の視認性をよくしました。 ● 軽量の紙を使用し軽量化に努め、また、堅牢で開きやすい PUR あじろ綴じとしました。 ● 拡大教科書を、文字のポイント別に複数種類発行予定です。 	全体

2 対照表

配当時数計：149（予備時数 26）

配当月	配当時数	単元名	学習指導要領・内容名	該当箇所 (上巻)
4	1	○学びのとびら	第 2 学年の内容	4～7
	8	①九九を見なおそう	A(3) ア(イ)(ウ)イ(ア) 内容の取扱い(3)(4)	8～23
	4	②時ごとと時間のもとめ方を考えよう	C(2) ア(ア)(イ)イ(ア)	24～29
5	9	③同じ数ずつ分けるときの計算を考えよう	A(4) ア(ア)(イ)(ウ)(エ)イ(ア)(イ)	30～42
	7	④大きい数の筆算を考えよう	A(2) ア(ア)(イ)イ(ア)	44～53
	1	○考える力をのばそう	A(2)(7)	54～55
6	7	⑤長い長さをはかって表そう	C(1) ア(ア)(イ)イ(ア)	56～65
	9	⑥記ろくを整理して調べよう	D(1) ア(ア)(イ)イ(ア) 内容の取扱い(8)	66～79
7	2	⑦数をよく見て暗算で計算しよう	A(2) ア(ア)(イ)イ(ア) 内容の取扱い(2)	80～81
9	7	⑧わり算を考えよう	A(4) ア(ア)(イ)(ウ)(エ)イ(ア)(イ)	82～91
	10	⑨ 10000 より大きい数を調べよう	A(1) ア(ア)(イ)(ウ)イ(ア) 内容の取扱い(1)	92～105
10	11	⑩大きい数のかけ算のしかたを考えよう	A(3) ア(ア)(イ)(ウ)イ(ア)	106～120
	4	⑪わり算や分数を考えよう	A(4) ア(オ)イ(ア)(イ) A(6) ア(ア)イ(ア)	122～125
	1	○どんな計算になるのかな？	A(2)(3)(4)	126
(下巻)				
11	8	⑫まるい形を調べよう	B(1) ア(ウ)イ(ア) 内容の取扱い(6)	2～13
	11	⑬数の表し方やしくみを調べよう	A(5) ア(ア)(イ)イ(ア)	14～29
12	9	⑭重さをはかって表そう	C(1) ア(ア)(イ)イ(ア) 内容の取扱い(7)	30～42
1	10	⑮分数を使った大きさの表し方を調べよう	A(6) ア(ア)(イ)(ウ)イ(ア) 内容の取扱い(5)	44～56
	3	⑯□を使って場面を式に表そう	A(7) ア(ア)イ(ア)	58～63
2	10	⑰かけ算の筆算を考えよう	A(3) ア(ア)(イ)(ウ)イ(ア) 内容の取扱い(2)	64～74
	3	○倍の計算	A(3)(4)(7)	76～79
3	8	⑱三角形を調べよう	B(1) ア(ア)(イ)イ(ア) 内容の取扱い(6)	80～93
	2	○そろばん	A(8) ア(ア)(イ)イ(ア)	95～97
	1	○考える力をのばそう	A(3)(7)	98～99
	3	○3年のふくしゅう	A～D	100～104

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学校	教科	種目	学年
104-120	小学校	算数科	算数	3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2・東書	算数・312 算数・313	新編 新しい算数 3上 考えたことがつながるね！ 新編 新しい算数 3下 考えたことがつながるね！		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項	ページ数
上138	③同じ数ずつ分けるときの 計算を考えよう 問題1	1	第3学年2内容A数と計算(4) ア(ア)「除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。また、余りについて知ること。」 イ(イ)「数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。」	1
上139	⑧わり算を考えよう 問題1	1	第3学年2内容A数と計算(4) ア(ア)「除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。また、余りについて知ること。」 イ(イ)「数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。」	0.5
下115	⑯分数を使った大きさの 表し方を調べよう 問題1	1	第3学年2内容A数と計算(6) ア(ア)「等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いることを知ること。また、分数の表し方について知ること。」 イ(ア)「数のまとまりに着目し、分数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに、分数を日常生活に生かすこと。」	1
合計				2.5

(「類型」の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容